

News Release

Kanadevia
Technology for people and planet

カナデビア株式会社

2024年12月12日

カナデビア株式会社、COP29で初出展 - 新たな廃棄物処理システムと脱炭素技術を提案し、世界の脱炭素化と資源循環に貢献

カナデビア株式会社は、2024年11月11日から11月24日までアゼルバイジャン共和国の首都バクーで開催された国連気候変動枠組条約第29回締約国会議（COP29）の「ジャパン・パビリオン」に初出展しました。期間中には、当社の桑原^{くわはら}道^{みち}社長兼COOが、一般社団法人日本環境衛生施設工業会（以下、JEFMA）※主催のセミナーで、「多様な廃棄物処理技術とCCUSで実現する資源循環」を提案しました。

【JEFMA セミナーで講演する桑原社長兼COO や展示ブースの様子】



当社は、「革新的な廃棄物処理システムで実現する循環経済と GHG 排出ネット・ゼロ」をテーマにしたブースで、廃棄物発電（ごみ焼却発電）、風力発電、海水淡水化、水電解、メタネーションなどの技術展示を行い、123 の国・地域から大統領や閣僚など要人も含め 1,000 名を超える来場者を集めました。来場者の中で、アフリカの訪問者からは即時のごみ処理技術の必要性を訴える声上がり、当社の廃棄物焼却炉導入が決定したキルギスの訪問者からは、技術の導入によるごみ問題解決への期待と弊社技術への安心感が寄せられるなど、多くの反響がありました。

世界の多くの地域では廃棄物を埋め立て処理していますが、日本では廃棄物発電技術が進化し、CO₂ 回収やメタネーションなどの技術と組み合わせることで循環経済と脱炭素に貢献することができます。COP29 での初出展を通じて、当社の技術や製品が世界で求められ、循環経済や脱炭素に寄与するものであることが改めて認識されました。

また、JEFMA によるセミナーでは、当社の桑原 道社長兼 COO が、「多様な廃棄物処理技術と CCUS で実現する資源循環」をタイトルとする講演を行いました。講演の動画および要約は次のとおりです。

【JEFMA セミナーでの講演の動画（画像をクリックください。16 分 45 秒）】



【講演内容要約】

1. 会社紹介

当社は約 80 年間、「日立造船株式会社」として事業展開をしてきましたが、2024 年 10 月に「カナデビア株式会社」に商号を変更しました。「サステナブルで、安全・安心な社会の実現に貢献する、ソリューションパートナー」を目指し、「資源循環」「脱炭素化」「安全で豊かな街づくり」の 3 つ分野でグローバルにビジネスを展開しています。

2. 当社の Waste to Energy（廃棄物発電、以下、WtE）プラント事業について

当社は、1960年にスイスのWtEプラントメーカーのフォン・ロール社（現 Kanadevia Inova AG、以下、Inova、2010年にはInovaを買収）と技術提携し、WtEプラント事業を開始しました。1965年に日本初の大型WtEプラントを大阪市に建設後、プラントを全世界で展開し、受注実績は1,500件以上となります

3. 資源・エネルギー変換「Waste to X（以下、WtX）」について

WtXのコンセプトは、焼却(熱処理)、ガス化、発酵技術を活用して廃棄物を資源化し、循環経済の実現を目指すものです。WtEとCCUS（二酸化炭素の分離・回収・貯留）を併用し、GHG排出のネット・ゼロを目指します。当社が有する代表的なWtXは以下の通りです。

- ①熱分解ガス化改質技術
- ②バイオメタネーション技術
- ③バイオエタノール技術
- ④二酸化炭素高濃度燃焼

これら以外にも、日本では国内最大の合成メタン製造に成功し、英国では大規模な水素燃料転換とCCSのプロジェクトが進行中です。このような二酸化炭素回収技術で世界の廃棄物処理分野での脱炭素化に貢献します。

当社はたゆまぬ技術革新により自然の恵みを活かし、支え、脅威に備えることを目指し、技術の力で、人類と自然の調和に挑んでいきます。

※一般社団法人日本環境衛生施設工業会（Japan Environmental Facilities Manufacturers Association） 環境省所管の一般社団法人。環境衛生施設に関する情報収集、調査研究等を会員相互に協力して行うことにより、技術の向上および環境衛生施設産業の健全な発展を図るとともに、適正な環境衛生施設の普及に関する事業を行い、生活環境の保全及び公衆衛生の向上に寄与するとともに循環型社会の形成に貢献することを目的としている。

（終）